

館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八一九
 Tel (03) 3264-1838
 Fax (03) 3264-1836
<http://www.tateyamajuku.com/> 館山塾

contents

チーフ制について	2面	ルーチンワーク	6面
合格の秘訣	2面	親子で読書	7面
館山塾の歴史	5面		

第Ⅰ・Ⅱ期の行事から

☆第Ⅰ期総合試験

(中学生) 【五月二十四日(日)】

五月二十四日(日)は、中学生全学年を対象に、第Ⅰ期総合試験が行われます。

対象 中学生全員

科目 国語・数学・英語の三教科
 (中三の理・社選択者は五教科)

(高一・二) 【五月二十四日(日)】

五月二十四日(日)は、高校一・二年生の各クラスを対象に、第Ⅰ期総合試験が行われます。

対象 高校一・二年生

科目 国語・数学・英語の三教科のうち、各自の受講科目(受講していない科目も、希望により受験できます)

☆次回総合試験……前期終了試験

【夏期講習最終日に実施】

第Ⅱ期(6月～8月)の予定

中・高共通

五月二十四日(日)………中学、高一・二第Ⅰ期総合試験

七月十七日(金)………平常講義終了

七月十八日(土)～二十日(月)………保護者面談

七月二十三日(木)～二十六日(日)及び

二十八日(火)～三十一日(金)………夏期講習期間A

八月二日(日)～五日(水)及び

七日(金)～十日(月)………夏期講習期間B

八月十八日(火)～二十一日(金)及び

二十三日(日)～二十六日(水)………夏期講習期間C

※期間Cは、高3を除く全学年、補講実施期間となります。期間A・Bの欠席者の他、発展的な演習から基礎事項の復習まで、授業以外にも、たっぷり力をつけたい諸君のための期間です。期間Cには高三オプション講座も開設されます。またこの期間、中三は各教科の演習講座を実施します。八月二十七日は、左記の通り全学年総合試験を実施します。

八月二十七日(木)………前期終了試験

お知らせ

☆総合試験について(中一～高二)

- ・総合試験は、塾生諸君の学習達成度を測るものとして、大変重要なものです。全員、必ず指定された日時に受験して下さい。
- ・万一、やむを得ぬ事情で欠席する場合は、事前に欠席届(事務でお渡しします)の提出が必要です。
- ・欠席届には、欠席理由を明記の上、保護者の方の署名と捺印が必要です。
- ・欠席届は試験前日までに事務へ提出願います。
- ・届け出時に、事務から後日受験の日時を指示します。
- ・当日、急遽欠席する場合には、当日中に電話連絡の上、事務の指示を受けて下さい。
- ・なお、この場合も、前記同様の欠席届を後日提出していただきます。

☆面談・夏期講習について

七月十八日(土)～二十日(月)実施予定の面談は中学生の保護者の方が対象となります。高校生の面談は七月中に随時実施する予定です。

夏期講習時間割等の詳細は、次回の塾報(六月下旬発行予定)でお知らせ致します。やむを得ぬ事情で夏期講習を受講できない場合は、七月五日までにご連絡下さい。

~~~~~

チーフ制度について

~~~~~

△▼チーフ制度とは？△▼

館山塾では、塾生一人に対して、常勤講師一名が担任講師（チーフ）となります。塾での受講科目に限らず、学校の成績も含めて成績を総合的に把握し、一人一人の塾生が、的確に学習を進められるようアドバイスしていきます。

高校生に関しては、既に年度初めに担当チーフによる面談を行いました。全学年とも、夏休み前、及び秋から冬にかけての時期に個別に面談を行う予定です。特に三年生には、受験を前に綿密な受験指導を行います。苦手科目を敬遠してつい勉強のバランスが崩れている場合など、早め的確なアドバイスを行う。授業以外でも塾生の学力向上に効果を上げていきます。なお高校生にも、保護者同席の三者面談のご要望にお応えしています。

塾生諸君の方でも、相談事があれば、いつでも各チーフまで申し出て下さい。受験相談から学習上のあらゆる事に至るまで、何でも受け付けます。模試の結果など携えて、どんな相談に来て下さい。また、チーフ以外の担当科目の講師に相談がある場合も、遠慮なく申し出て下さい。

ここに紹介する「秘訣」は、今春、合格を果たした諸君から寄せられたものです。受験生活を振り返り、どのような点に注意したらよいか、それぞれの時期別に書いてもらいました。各自の学習の参考にして下さい。

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

大学合格者による「合格の秘訣」

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

佐藤一人君（都立日比谷高）

首都大学都市教養学部合格

☆高1の時

原田先生と一緒に頑張って「ターゲット」を覚えようと努力する。

☆高2の時

原田先生と一緒に頑張って「データベース」を覚えようと努力する。

☆高3の一学期

澤根先生に下線部和訳、英作文の指導をしてもらう。

☆高3の夏休み

学校と塾の夏期講習をいっぱい取って一日中英語をやるうと挑戦する。

☆高3の二学期

佐治先生に日本史の論述対策をしてもらう。

☆高3の冬休み

センターに向けてひたすら政経・化学を勉強。

☆高3の直前期

国公立の過去問をしつく佐治先生・三輪先生・胡子先生に見てもらい、私立の数学は松山先生に色々な過去問をもらう。

河口麻衣さん（三輪田学園高）

早稲田大学教育学部合格

上智大学総合人間科学部合格

立教大学現代心理学部合格

学習院大学文学部合格

☆高3の一学期

塾の宿題と、学校のテスト勉強中心だった。そこまで受験生！という意識はなかった。

☆高3の夏休み

このままではやばい！と思ってやりたいことを制限し、基礎中心に（特に英語）勉強した。

☆高3の二学期

英語を中心に勉強した。英単語・古文単語など基礎がまだきちんとしていなかったの、夏休みに引き続きつづけた。

☆高3の冬休み

センターの過去問をひたすらやった。過去問をやってみて、日本史がやばいことに気づいたが、遅すぎたので、毎日コツコツやって

☆高3の直前期

大学の過去問を、何度も繰り返しやっ

おくべきだと思

菅沼美保さん(都立新宿高)

早稲田大学教育学部合格

明治大学文学部合格

法政大学文学部合格

☆高1の時

転校するために学校や塾の復習をたくさん
しました。が、これが後々かなり役に立
た気がし

☆高2の時

学校の勉強と塾の勉強しかしてません。で
もちゃんとやればそれだけで充分だと思
います。

☆高3の一学期

塾と学校が両方ハードになって、ついて
い

☆高3の夏休み

オープンキャンパスに行つてやる気を上げ
る。この頃精神的にまいることがあつて、そ
れが今思えば時間のムダだったので、メン
タルを強くすること、たまには休むことが
必要だと思

☆高3の二学期

勉強をしているけど、中身の無いダラダ
ラとした勉強になってしまいがちだったので、

生まれて初めて計画を立てて勉強をしま
した。

☆高3の冬休み

日本史しかやってないです。たぶん。

☆高3の直前期

英単語、文法、古文・漢文、現代文の用語
の確認をしつつ、ひたすら日本史。

小林倫さん(都立両国高)

明治大学商学部合格

東洋大学経営学部合格

☆高1の時

英語だけ受講して、主にテキストの予
習と復習テスト、単語テストの勉強をして
いた。

☆高2の時

高1の時と同じ。

☆高3の一学期

まだ部活をやっていたので、高1・2年の
ときとあまり変わらないが、英単語は以前
よりも確実に覚えていくようにした。

☆高3の夏休み

講習のテキストの他に各教科の自習プリン
トなど、たくさんさんの問題を解くことを意
識した。過去問も解き始めた。

☆高3の二学期

平日に塾の予習・復習をやつて、土日に模
試。返却された模試の復習、過去問をやつ
ていた。

☆高3の冬休み

講習の他に、各教科の自習課題をやり、数
学は、前のテキストの基本的な問題を解き直
した。

☆高3の直前期

ほとんど過去問を解いていたが、数学は不
安なところが多かったので、分野ごとにテキ
ストの問題を解き直した。

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

卒業生からのアドバイス(高校受験編)

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

堀井丈太郎君(神田一橋中)

都立戸山高校合格

東洋高校合格

☆中1の時

中一の時は緊張していたので、ふざけな
いで一回一回の授業をしっかりと受けた。

☆中2の時

中一での学力をさらに伸ばした。多少さ
ぼつてしまい、後悔している。

☆中3の一学期

今まで通り、普通にしていた。

☆中3の夏休み

部活がラストで、あまり勉強はしなかつ
た。

☆中3の2学期

とにかく内申を上げるために定期テストに力を入れた。

☆中3の冬休み

寒かった。カゼを引かないよう気をつけた。

☆中3の直前期

過去問をやり続けた。ギリギリ一周でき、あとは見直しをした。

清水脩平君（日本橋中）

本郷高校合格

豊島学院高校合格

☆中1の時

追試にならないようにする。疑問を残さないようにする。優先順位、部活入塾（部活より塾優先）。

☆中2の時

（中1の時と同様）追試にならないようにする。疑問を残さないようにする。

☆中3の1学期

（復テに）合格しても、もう一回受けて確認する。

☆中3の夏休み

休まず来る二

☆中3の2学期
過去問をやる。

☆中3の冬休み

過去問をやる。

☆中3の直前期

体調を整える。

伊左治玲良君（文京六中）

都立広尾高校合格

郁文館グローバル高校合格

☆中1の時

まずは基礎。

☆中2の時

まずは応用。

☆中3の1学期

休まずに来て、しっかり頭の中に入れる。

☆中3の夏休み

もうすぐ受験という感じを実感する。

☆中3の2学期

とにかく勉強。

☆中3の冬休み

総まとめをやって、三科をできるだけやっておく。

☆中3の直前期

理社を集中的にやる。過去問を解く。

守屋統君（神田一橋中）

都立深川高校合格

錦城学園高校合格

☆中1の時

先生の言うとおりに勉強する。

☆中2の時

受験を少し意識しながら学校のテストをがんばる。

☆中3の1学期

学校の1学期のテストをがんばり、勉強する。

☆中3の夏休み

塾にちゃんと行って、先生の言うことを聞いて勉強する。

☆中3の2学期

学校のテストをがんばる。

☆中3の冬休み

塾にちゃんと行って勉強する。過去問を解く。

☆中3の直前期

過去問を解いて自信をつける。

深野滯さん（牛込第三中）

城西大学城西高校合格

杉並学院高校合格

☆中2の時

塾のペースをつかむ。

☆中3の一学期

ひたすら勉強。自分にあつた勉強法をみつける。

☆中3の夏休み

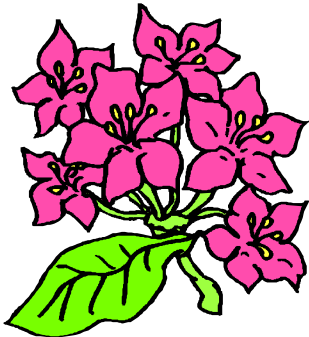
一・二年生の復習を完へきにする！

☆中3の冬休み

中学校三年間の勉強を完へきにする！

☆中3の直前期

入試問題をたくさんやる。入試に出そうな問題ののっている問題集を買ってやる。



▲▽ 館山塾の歴史 ▼▲

胡子俊英

館山塾は昭和五十一年（一九七六年）に、前理事長桑野正夫氏と初代塾長館山光一氏によって当初「館山数英塾」という名称で設立されました。館山塾の名称は、館山さんの名前から取ったものです。この館山さん、志村けんに少し似ていて、ある時、道を歩いていたら、小学生に「あーっ！志村けんだ！」と騒がれて、「違うよ」と否定したら、「気取ってやがらあ」とか言われたとかいうこともある面白い人でした。現在は静岡の県立大学に勤務されています。

設立当初の生徒の中に加藤徹氏（現在明治大学教授）がいたと聞いています。加藤さんは館山塾で学んで開成高校へ進み、東大の学生時代には館山塾で教壇に立ったこともありました。先日までNHKテレビの「カンゴロンゴ」という番組で、専門の中国の故事成語を紹介していました。

私は大学二年の時に芝居仲間であつた友人に頼まれて、塾の案内書用の写真を撮りに来たのがきっかけで（大学では写真部でしたから）、昭和五十四年から非常勤講師として勤めるようになりました。

当時は東大の学生や大学院生が中心のスタッフで、今では各界で活躍されている人が大勢います。

指回し体操を考案し、『記憶力がいままでの十倍よくなる法』等の著書や、速読システム開発者として知られる栗田昌裕氏も、医学部生の頃、館山で教壇に立っていました。東大の数学科の大学院を出た後、医学部に入り直した頃のこと、ある時、休憩時間に解剖学の分厚い本を読んでいたもので、こんなに騒がしい所で頭に入るのですか、と尋ねたら、「一度読めば頭に入ります」と答えていたのが印象に残っています。

その頃の生徒に、現在、大塚駅前の山下診療所で開業している山下巖氏がいました。彼は麻布高校でトップの成績で東大の理科Ⅲ類に現役で合格したのですが、私が今まで教えた生徒の中で一番頭のいい生徒と言えば、彼のことを先ず思い出します。当時、高三の国語を担当していましたが、まだ私も二十四、五歳の頃で、年齢も大して変わらない、しかも明らかに自分より頭のいい生徒に何か実のあることを教えようと必死でした。生徒によって教える方も成長させてもらえるという経験は、その後もいろいろな生徒との出会いで積み重ねてきましたが、彼の力は最強でした。

『世界一わかりやすい株の本』『数学嫌いでも数学的思考力が飛躍的に身に付く本』でおなじみの細野真宏氏も、二、三年、非常勤として館山の教壇に立ったことがあります。生徒を引き付けるカリスマ性で言えば

この人が最高で、学力別にクラス編成する必要はないと言って、受講を希望する生徒は誰でも受け容れていました。カリスマ性のある人にはよくあることですが、熱狂的な信者がいる一方で、ちょっとこの先生は遠慮したい、という生徒がいたのも事実です。しかし、学力差のある二十人以上の生徒を同時に満足させる授業ができる指導力は、簡単に真似のできるものではありませんでした。

この他にも、先ごろ当選した森田健作千葉県知事のマニフェスト作成を協力したという川上和久氏（明治学院大学副学長）も、学生・院生時代に館山の非常勤として数々の武勇伝を残した人です。また、『論理トレーニング』『論理学！入門』等の著書がある野矢茂樹氏（東京大学教授）や演劇論の内野儀氏（同）も非常勤として名前を連ねていました。面白いエピソードや秘密もあるのですが、いくら三十年近く前のこととはいえ、個人情報保護法に抵触しては困りますので、この辺にしておきます。



▲▽ルーチンワーク▽▲

熊倉幹男

「イチローはなぜ同じ毎日を繰り返しているのに未来をつくれるのだろうか。」

NTT 東日本の宣伝コピーです。テレビの画面にはイチロー選手がストレッチをしている場面が映っていました。イチロー選手については今更説明はいらないでしょう。日本の誇り、世界のイチロー選手ですね。さて、この宣伝コピーを我々への良いアドバイスとして受け止め、未来をつくるヒントをいただきましょう。

一つは、日々の努力の大切さです。当たり前すぎますが。イチロー選手は「同じ毎日」を繰り返している、ということです。野球はあまり詳しくないので、ゴルフの話しにしてしまっても恐縮ですが、世界のトップレベルに到達したことのある中嶋常幸選手は、「我々プロは毎日基本の反復練習に徹しています。アマチュアの方の練習を見ていると、難しいショットの練習が多いような気がしますね。」と言っていました。地道な練習の繰り返しを続けられる人だけが一流に慣れるということでしょう。イチロー選手も地道な練習を繰り返していたのでしょう。さて、皆さんにとっての地道な練習とは何でしょうか、具体的に考えてみましょう。

もう一つはルーチンワークの威力です。ルーチンワークを調べてみると、「日々決まて行う業務のこと」と書いてありますが、ちょっと、ちょっと、そんなに簡単にすまさないで下さい、というくらい大事なものだと思います。イチロー選手のルーチンワークは、朝起きて散歩を10分、ストレッチを1時間、球場に行ったら、バットのグリップを10分、(勝手に想像で書いています)、…、といつも同じ行動をとると思います。事前に決めたメニューをこなしていくだけですから、「何をどうしよう」とか「あれ忘れちゃった」とか、考えたり迷ったりする余地はありません。ですから毎日必ず行わなければならない、と言いますか、行うことができるのです。

皆さんは何かルーチンワークはありますか。朝起きて、顔を洗って、ご飯を食べて、…、も立派なルーチンワークですが、勉強におけるルーチンワークはありますか。例えば、机に座ったらまず返されたテストを見直して悔しがることから始めるとか、寝る前に次の日の教科書をカバンに入れる(これだけでも立派なルーチンワークですが、毎日実行していれば)とき、教科書をペラペラとめくって次の日の授業のところをサッと目を通しておくとか。こういうルーチンワークを作ると一番良い点は、何をしたら良いか考えずにすぐ行動ができるということです。そしてこれが習慣となりますと、すごい威力は発揮し、きっとあなたの未来をつくることができると思います。早速、自分のルーチンワークを作ってみましょう。

▲▽ 親子で読書 『正しく知る地球温暖化』 赤祖父俊一・誠文堂新光社 2008.7.7 ▽▲

三輪裕治

1975年の2月21日、静岡に3cmの雪が積もりました。雪国の方々には信じられないかもしれませんが、静岡地方気象台の観測統計資料によれば、これは今でも史上第二位の記録です。その日、中学一日体験授業のために往復3.2kmの通学路を歩かされていた小6の私は、「未確認飛行物体！」と叫びながら固めた雪をぶつけあっている無邪気な同級生たちを尻目に、「地球はいよいよ氷河期に突入する」という一部科学者の警告の重みをひしひしと噛み締めていました。平成生まれの塾生たちには信じられないかも知れませんが、大きな氷河がニューヨークの摩天楼をなぎ倒すイラストが描かれたように、1962年から75年あたりまで地球の気温はかなり低めでした。

前年の1974年はユリ・ゲラーが初来日し、スプーン曲げが大ブームになりました。3月『驚異の超能力！！世紀の念力男ユリ・ゲラーが奇蹟を起す！』4月『特集！驚異の超能力ユリ・ゲラーのすべて』。ところが、半年もたたずに手品師であった過去と曲げ方のネタバレ。でも、日テレ矢追純一ディレクターはそんなことでは全くめげず、同年10月「宇宙人は地球に来ている」75年2月「空飛ぶ円盤をキャッチ！雪男が見つかった！四次元世界の謎を探る」と不死鳥のごとく次々とヒット連発。1975年の2月というのは、そんな時代でした。

それから34年の時が流れ、「気候変動に関する政府間パネル（IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change）」とアル・ゴア元アメリカ副大統領は、「現在進行している地球温暖化の大部分 most は高い確率をもって very likely 炭酸ガスの温室効果による」と高らかに宣言してノーベル平和賞を受賞し、矢追純一氏はあのようなUFO番組を企画した理由を問われ、自分は本当はUFOには懐疑的だったと前置きした上で「日本人にもっと空を眺めて欲しかったから」とすがすがしい笑顔で答えています。

『走れメロス』のメロスならひたすら無二の親友を信じ、暴君ディオニスならひたすら全ての人間を疑えばよいのである意味シンプルですが、そうともいえない我々は単純なビリーバーにも意固地な懐疑主義者にもならず、他人から騙されたり時々は真実を見破ったりしながら、何とかその場その場で頭を使って生きていくしかありません。

今日ここで紹介するのは「温暖化」に関して今最も評判がよい本の一冊です。本書の結論は「現代進行中の温暖化の約六分の五は地球の自然変動であり、人類活動により放出された炭酸ガスの温室効果によるものは約六分の一程度である可能性が高い」「現在進行している温暖化は『小氷河期』という比較的寒かった期間（1400～1800年）から地球が回復中のためであり、自然変動である可能性が高い」というものです。筆者はアラスカ大学国際北極圏研究センターの所長をしていた赤祖父俊一氏です。アル・ゴア氏とIPCCの主張とは真っ向からぶつかる内容ですが、本書の執筆動機は純学問的なものに思えます。

私を含め、エコの重要性について異議を唱える人はいないと思いますが、地球温暖化の原因が本当にCO2であるのか、CO2を削減すること以上に重要な環境問題はないのか、ということについては、もう少し冷静な議論の積み重ねが必要なのでは？というのが、この読書のすすめコーナーで伝えたいことです。それは1974年から75年を小学生として生き抜いた自分の責任のように思えるからです。

念のために、「地球寒冷化説」も紹介しておきます。気候変動の最も大きな原因は「宇宙線の照射量が支配する雲量」であると主張する『「地球温暖化論」に騙されるな！』（東京工業大学大学院教授丸山茂徳：講談社 2008.5）。なぜかこの本にはその詳しいメカニズムについてはほとんど書かれていませんが……。丸山氏は2007年からすでに寒冷化が始まっていて、2035年くらいまではそれが続くと予想しています。

ちなみに私はスプーン曲げを今でも練習していますが、超能力者たちのようにはなかなかうまく行きません。

